

CD-Rom 紹介

金井弘夫：地図で見る「日本地名索引」
中部ブロック版（関東・中部地方）ア
ボック社（247-0056鎌倉市大船2-14-13,
TEL0467-45-5119 FAX0467-45-6591）
1998 本体¥28,000+税

清水建美（390-0312松本市岡田松岡211-3）

近頃は百科事典や全集など大部な本は印刷物としてではなく、CD-Romとして普及され始めたようだ。私自身の経験からすれば、「長野県植物誌」編纂に際して学名の出典を調査するために、はじめは大型判のIndex Kewensis 2冊とそのSupplement 20冊を一冊一冊ひっくり返して調べていたが、その時間の浪費にたまりかねてCD-Romを購入した。これにはリンネ以降1996年までに発表されたすべての種子植物の種以上の分類群の学名（最近では品種ランクまで）を収録しており、出典や分布域も付記されている。CD-Romの利点は、まず、1枚のフロッピーで事足りるのでスペースの節約ができること、学名や命名者名など必要な事項を瞬時にして検索できることにある。

植物誌編纂に当たっては植物標本の採集地名や文献上の産地名を調べる事は不可欠の作業である。「長野県植物誌」編纂ではこのこと

のために、もっぱら金井弘夫著「日本地名索引 上・下」（1981年、124578件収録）、同「新日本地名索引1-3」（1993年、384959件収録）、「地名レッドデータブック」（1994年、82805件収録）のお世話になった。しかし、これらはすべて大冊で全6巻もあるので一つの地名を探し当てるのにかなりの時間を要したことはいうまでもない。ところで、遅きに失した感はあるものの、ありがたいことにこのほどこれらの地名がCD-Romにすっきり収められ、「全国版」「北部ブロック版」「中部ブロック版」「西部ブロック版」として頒布されることになった。「中部ブロック版」には337335件のデータが含まれている。発売元の宣伝というわけではないが、検索機能では知りたい地名は正しい地名であれば1秒以内で出てくるし、地名の部分から完全地名を引き出すこともできる。一定の範囲内の地名をことごとく引き出すこともできるし、採集地名を検索・保存して置けば分布図を描くこともできる。出来た分布図は、拡大・縮小ができるし、地点マークは選り取り見どり、県境や河川・鉄道・国道なども表示可能でその用途は計り知れない今、われわれは「長野県植物誌 資料集」の作成を進めているが、地名索引・表示については本CD-Romを活用することによって大幅に能率化されるだろう。あるいは資料集そのものもCD-Romによる出版を考慮すべきも知れないと思う。